

## 1. 研究主題

# 『互いに励まし合い、困難を乗り越えられる生徒の育成』 －生徒の悩みや願いを語り合える教師－

足利市立愛宕台中学校

## 2. 研究主題設定の理由と研究主題の考え方

### (1) 本校の教育目標や求める教師像から

#### 《教育目標》

- 1 自主的に考え知性をみがこう
- 2 誠意を示し自他を尊重しよう
- 3 美を愛し豊かな心をもとう
- 4 心身を鍛え生命を大切にしよう
- 5 国際理解につとめよう

#### 《求める教師像》

##### 『生徒の心に生きる教師』

・生徒と共に学ぶ教師・生徒と共に働く教師・生徒と共に喜ぶ教師

#### ○「1 自主的に考え知性をみがこう」との関連

自ら学び、自ら考える力を育て、自分自身を肯定的に理解し、自分に自信を持ち自分の存在を価値あるものと受け止められる自尊感情を育成することが重要である。

そして、このような自尊感情が育成されていれば、同和問題をはじめ、様々な人権問題について、不安や悩みを持ったとき、その課題解決のために自分の考えをしっかりと持ち、正しく判断しその判断に基づいてねばり強く明るく行動することによって、困難に打ち勝つ力が育成できると考えた。

#### ○「2 誠意を示し自他を尊重しよう」や「3 美を愛し豊かな心をもとう」との関連

集団の中で、自他のよさや相手の気持ちや自分との違いを認め合い、お互いに励まし合い尊重しながら自分らしく生活しようとする態度を育成することが重要である。

そのためには、お互いの立場や気持ちを受容的・共感的な態度で接していくことが必要であり、偏見に縛られず相手のことを豊かな心で受け止められる感性を身につけ、お互いの存在を認め合いことが必要なことである。それは、支え合い励まし合って、困難を乗り越え強く生きていく生徒の育成につながるものと考えた。

#### ○『生徒の心に生きる教師』

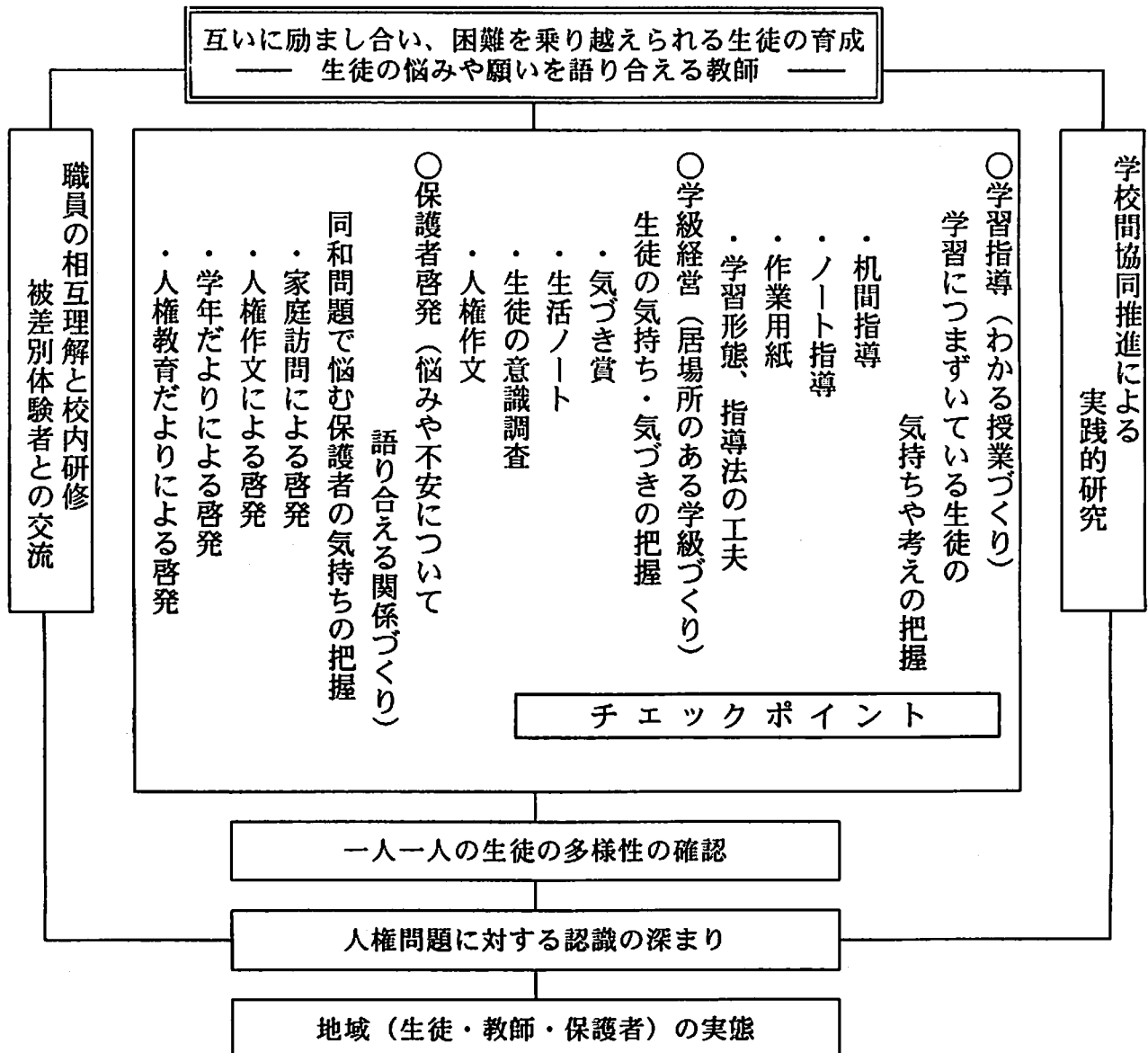
人権教育は「教育の始まり、教育に終わる」と言われている。したがって、人権教育に携わる教師自身が鋭い人権感覚を身につけなければならない。そのためには、教師自らが自分の中に潜む差別意識がどうなっているかを厳しく謙虚に反省することが必要である。また、人権教育の推進にあたっては、教師の在り方、教師の心の変容等、教師自身の課題であると真摯に受け止めることから始まると考えることが必要である。そして、一人一人の生徒と教師のかかわりの中で生徒の悩みや願いを生徒の立場になって受容的・共感的に聴くことのできる教師を目指さなければならない。つまり、教師の同和問題をはじめ、様々な人権問題に関する真摯な取り組みが生徒を感化し、生徒の心に生きる教師につながると考えた。

## (2) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく素直であり、授業中も先生の話静静地に集中して聞くことができ、学校行事や生徒会活動・係活動などにも一生懸命取り組む姿が見られる。昨年、6月に行った生徒の実態調査の結果からは「友達が仲間はずれにされたときどうするか」という設問では、「注意する」や「言われた人をなぐさめる」という回答が約5割、「だまっている」や「人によって決める」という回答が約4割という結果になった。やはり、学級の中で誰かがいじめられていたら誰に対しても優しい言葉をかけたり、支え合ったり励まし合ってほしいものであるが、小規模校というせいもあって、生徒同士の交友関係が広がらないのが実態である。相手のことを傷つけてはいけないという善悪の判断はできていても、自分の思いや考えを相手にきちんと伝えたり、分かってもらえるように丁寧に説明したりする豊かな表現力や強い意志が十分に育っていないと考えられる。

そこで、お互いのよさを認め合い支え合える居場所のあるあたたかい学級集団づくりを目指した学級経営を基盤に、お互いがそれぞれの思いや考えを受容し励まし合える態度を育て、困ったときに励まし合い支え合って困難を乗り越えられる生徒を育成しようと考えた。

## 3. 人権教育推進の構想



#### 4. 3年間の研究の取り組み

《平成18年度（1年目）》

回	月 日	曜日	研 究 内 容	備 考
1	4月26日	水	・足利市教育委員会指定研究学校の趣旨 講師：井上指導主事 ・研究学校としての人権教育の進め方 講師：須藤指導主事	
2	5月10日	水	・人権教育アプローチについて説明 （人権に関する作文の募集について） ・人権教育研究推進組織について提案 ・人権教育研究授業について提案	
3	5月22日	月	・人権教育研究授業について授業者検討 実態調査アンケートについての検討	
4	5月24日	水	・実態調査アンケート（生徒用、職員用）について説明	
5	5月31日	水	・一人一人の生徒を把握のためのチェックポイントの 作成に向けて各推進部ごとの話し合い	
6	6月21日	水	・人権教育アンケートのまとめ ・研究授業用の指導案形式について	
7	6月26日	月	・社会科の教科書に出てくる、同和問題に直接かわ る内容の研修 「いつ頃、どんな内容を、どのように学ぶのか」	
8	7月12日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事前研修	
9	8月2日	水	・一人一人を把握するためのチェックポイントの作成	
10	8月22日	火	・被差別体験者との交流研修 （久野小・筑波小・愛宕台中の三校合同） ・チェックポイントの検討と完成	
11	9月20日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事後研修 講師：柏瀬先生（西中）	
12	9月27日	水	・チェックポイントの活用と記録について ・家庭訪問における保護者啓発のあり方 講師：久保先生（坂西北小）	
13	10月4日	水	・指導案について説明、研究授業の視点の説明 ・教科ごとに指導案作成の打合せ	
14	10月11日	水	・教科ごとに指導案作成の打合せ	
15	10月16日	月	・人権作文の保護者の感想のまとめの説明	
16	10月25日	水	・教科ごとに指導案作成の打合せ ・展開と座席表と研究副主題との関連について検討	
17	11月8日	水	・授業研究会の打ち合わせ	
18	11月15日	水	・授業研究会の最終打ち合わせ	
19	11月20日	月	・研究授業と協議	授業公開
20	12月13日	水	・授業研究会での分科会の報告 ・今年度のまとめ方について説明 ・足利市学校同和教育推進の方策の輪談会	
21	1月17日	水	・今年度を振り返って、反省や課題（各部の話し合い） （生徒の把握の様子はどうだったか。） ・チェックポイントの見直し（項目や表記について） ・1年次の成果と課題の検討	

22	2月19日	水	・人権教育の推進と2年次への取り組みの方向 講師：漆原先生	
----	-------	---	----------------------------------	--

《平成19年度（2年目）》

回	月 日	曜日	研 究 内 容	備 考
1	4月6日	金	・研究校1年目の成果と確認、 ・本テーマの決定 ・研究組織の設定	
2	4月11日	水	・研究校2年目の研究の方向と内容、 (各部の推進計画の確認、チェックポイントとの見直し) ・研究授業の授業者検討	
3	4月25日	水	・研究学校指定の趣旨・運営について 4月13日(金) 足利市教育委員会指定研究学 校長・主任会議の説明 ・チェックポイントの見直し ※別紙参照 ・今年度の予定、 研究授業の持ち方など	
4	5月9日	水	・研究授業の持ち方 ・授業の視点の説明	
5	5月30日	水	・実態調査アンケートについて(5月31日実施)	
6	6月13日	水	・人権教育アプローチについて説明 (人権に関する作文の募集について) ・チェックポイントを活用して把握したことの 情報交換会	
7	6月19日	火	・人権教育公開研究授業 授業者 内藤：道徳(1の2)、佐藤：理科(3の1)	授業公開
8	7月11日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事前研修	
9	8月22日	水	・被差別体験者との交流研修 (久野小・筑波小・愛宕台中の三校合同) ・指導案についての検討 (展開と座席表と研究副主題との関連について)	
10	9月19日	水	・研究授業の視点の説明 ・教科ごとに指導案作成の打合せ	
11	9月26日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事後研修 講師：久保先生(坂西北小)	
12	10月4日	水	・研究授業の視点の説明 ・教科ごとに指導案作成の打合せ	
13	10月10日	水	・教科ごとに指導案作成の打合せ	
14	10月17日	水	・研究会の最終確認	
15	10月29日	月	・人権教育公開研究授業 授業者 吉田：音楽(1の1)、檜枝：社会(2の1) 高沢：国語(3の2)	授業公開
16	12月19日	水	・授業研究会のまとめ ・人権作文の保護者の感想のまとめ ・家庭家族の中で同和問題について話し合うのまとめ ・足利市の学校における人権教育推進の方策の輪読会 ・研究校2年目のまとめ方について	
17	2月6日	水	・チェックポイントの自己評価	
18	3月 日	水	・人権教育の推進と3年次への取り組みの方向	

《平成20年度（3年目）》

回	月 日	曜日	研 究 内 容	備 考
1	4月16日	水	① 研究校2年目の成果と確認、 ・テーマの確認 ・研究組織の確認 ・研究校3年目の研究の方向と内容、 (各部の推進計画の確認、チェックポイント等) ② 研究授業の持ち方	
2	5月21日	水	・研究授業の授業者検討 研究授業に向けての研修（指導案の検討）	
3	5月28日	水	・指導案についての検討 (展開と座席表と研究副主題との関連について)	
4	6月11日	水	・人権教育アプローチについて説明 (人権に関する作文の募集について)	
5	6月17日	火	・人権教育校内研究授業 授業者 長島：英語（1の1）、小川：体育（2の2）	
6	7月1日	火	・人権教育公開研究授業 授業者 永島：学活（3の1）	授業公開
7	7月16日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事前研修 ・チェックポイントの自己評価	
8	8月6日	水	・被差別体験者との交流研修 (筑波小・愛宕台中の二校合同) ・指導案についての検討 (展開と座席表について)	
9	8月29日	金	・指導案についての検討 (展開と座席表と研究副主題との関連について)	
10	9月10日	水	・指導案についての検討 (研究副主題との関連について)	
11	9月17日	水	・指導案についての検討 (研究副主題との関連について)	
12	9月26日	水	・家庭訪問における保護者啓発の事後研修 講師：柏瀬指導主事（市教委）	
13	10月8日	水	・チェックポイントをもとに把握したことの情報交換 (生徒の良い面を中心に)	
14	10月22日	水	・指導案の内容確認 ・研究会の最終確認	
15	10月30日	月	・人権教育公開研究授業 授業者 長島：英語（1の1）、檜枝：社会（2の1） 内藤・石村：数学（2の2） 永島：道徳（3の1）	授業公開
16	11月19日	水	・授業研究会のまとめ ・人権作文の保護者の感想のまとめ ・家庭家族の中で同和問題について話し合うのまとめ	
17	12月10日	水	・研究校3年目のまとめ方について ・チェックポイントの自己評価	
18	3月18日	水	・人権教育研究校の3年間の取り組みのまとめ ・研究校終了後の継続研究について	

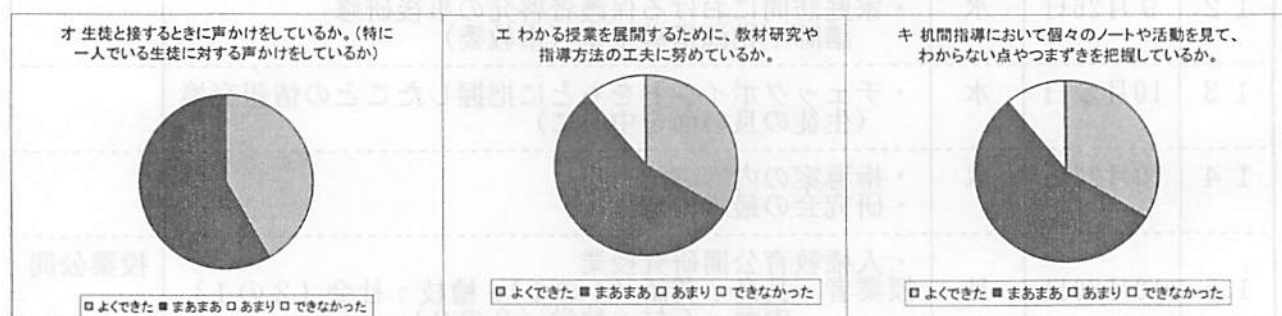
# 5. 学級経営や学習指導における生徒把握のためのチェックポイントの作成

平成18年度に全職員で共通理解を図りながらチェックポイントを作成した。平成19年度に「足利市の学校における人権教育推進の方策」が改訂されたので、本校でもそれに沿って見直した。

日常生活の場面での生徒理解チェックポイント 足利市立愛宕台中学校（平成20年度用）			
時間	視点	チェック内容	評価
朝	①⑫	ア 生徒の登校前に教室環境の確認をしているか。	
	①	イ おいさつの様子、表情などを把握しているか。	
	①⑫	ウ 一人一人を正しい名字に「さん」をつけて呼び、健康観察と共に様子を把握しているか。	
休み時間	②⑦	エ 気になる生徒の情報交換をしているか。	
	①	オ 生徒と接するときに声かけをしているか。（特に一人でいる生徒に対する声かけをしているか）	
	②⑦	カ 生活ノートの点検・コメントの記入をしているか。	
給食	①	キ 準備を共にしながら、子どもの様子の観察・声かけをしているか。（分担が偏っていないか把握する）	
	①	ク 会話をしながら、生徒同士・生徒と教職員での人間関係づくりに努めているか。	
昼休み	①	ケ 生徒と共に過ごし、触れ合おうとしているか。	
清掃	①	コ 共に働きながら、子どもの様子の観察・声かけをしているか。	
帰り	①	サ 子どもの様子や表情を把握しているか。	
部活動	①	シ 部活動への取り組みや人間関係の様子を把握しているか。	
随時	⑦	ス 「気づき賞」を通して、一人一人の良い面を把握しているか。	

授業における生徒理解チェックポイント			
時間	視点	チェック内容	評価
各教科の授業	⑤	ア 忘れ物をした生徒を把握し、適切な手だてをしているか。	
	①	イ 始業時に、一人一人の表情などを把握しているか。	
	⑫	ウ 呼名、指名は正しい名字に「さん」をつけているか。	
	③④	エ わかる授業を展開するために、教材研究や指導方法の工夫に努めているか。	
	④⑦	オ 一人一人が活躍できる場を設け、努力を認め、励ましているか。	
	④⑥⑫	カ 考える時間を十分にとり、安心して発表できる雰囲気作りに努めているか。	
	③⑦⑧	キ 机間指導において個々のノートや活動を見て、わからない点やつまづきを把握しているか。	
	⑥⑦⑧	ク 学習形態を工夫し、生徒が自分の意見を表現しやすいようにしているか。	
	④⑦	ケ 評価方法を工夫して、一人一人のつまづきや悩みを把握しているか。	

◎各学期ごとに自己評価を実施し、全職員が意識して取り組めるように配慮している。  
（平成20年1学期の自己評価より）



- ・チェックポイントを活用する上で留意していることは、把握した様子は記録簿に記録し蓄積していくこと。そして、定期的に記録簿をチェックし、記録されていない生徒については、それ以後の授業では意識して見るように心掛けること。
- ・わかる授業づくりは学習指導のうえでも重点である。本校は小規模校でほとんど各教科が一人体制であるので、教材研究や指導法の工夫を行う時間が無いのが実態である。しかし、生徒にとってみると学校規模によるハンディがあってはならない。我々教職員は、生徒のために教材研究をおろそかにしてはならないと感じている。

◎年度末は、全職員がチェックポイントを通して把握できたことを「私の人権教育の実践」という内容でまとめ、生徒の見方について振り返っている。  
（別紙資料1）

6. 人権教育の研究授業における実践（平成20年度）

研究主題 『互いに励まし合い、困難を乗り越えられる生徒の育成』 ～生徒の悩みや願いを語り合える教師～				
	授業クラス	授業者	教科・領域	題 材 名
1回目	1年1組	長島 弓子	英 語	I pray Football
	2年2組	小川 裕之	体 育	陸上競技（短距離走・リレー）
2回	3年1組	永島 裕子	学 活	私のものさし（エンカウンター）
3回目	1年1組	長島 弓子	英 語	アイヌの人から学ぼう
	2年1組	檜枝 勉	社 会	広がる社会運動
	2年2組	石村・内藤	数 学	三角形の合同条件
	3年1組	永島 裕子	道 徳	Assistance Dogs
研究授業の視点 ① 一人一人の生徒の学習のつまずきや不安、よい面を把握するための手だてと場の設定がなされていたか。 ② 教師が一人一人の生徒といかに関わっていたか。				

指導案には、本時の展開のなかに『研究副主題からのチェックポイント』として、一人一人の生徒の学習のつまずきや不安、よい面を把握するための手だてを★印で記入した。また、座席表には生徒の学習状況で把握したことや日常生活での生徒の良い面を中心に記入した。さらに、別紙資料として、研究副主題との関連を図るために、先生が日常実践している人権教育について、具体的な生徒との関わりを通して把握したことを記入した。このように、指導案に一人一人の生徒との関わりや把握したことを書くことにより、我々教職員がいかに生徒一人一人をよく見ていかなければならないかを考える機会とした。

《例：社会科 指導案中の本時の展開》

2.学習課題を確認する。 民衆の生活や権利の向上を求める運動は、どのように展開し、実現したのだろうか。	2分 一斉 個別	・学習シートに学習課題を書かせることで、一人一人に本時の課題をしっかりと意識させたい。	
3.社会運動について調べ、発表する。 ①労働運動 ②小作争議 ③女性の地位向上 ④全国水平社	15分 個別 一斉	★机間指導をして、学習シートに記入できないでいる生徒がいまいかどうか把握する。 ・学習形態は個人、ペア、小グループを自由に選択させておこなう。	・それぞれの立場の人々が、生活や権利の向上を求めて社会運動を起こしたことがわかったか。 （社会的事象についての知識・理解）
4.水平社宣言を読み、宣言にこめられた人々の願いを考え、発表する。	25分 一斉 個別	★生徒の表情を観察したり、学習シートから、不安や戸惑いなどを感じている生徒がいまいかどうか把握する。 ・生徒一人一人の表情をできる限り観察しながら補説をする。	・水平社運動に対する感想を書くことができたか。（社会的な思考・判断）

## 7. 座席表の記入（一部抜粋）

特定の人しか話せなかったが、最近自分から積極的に友達と関わろうとしている。	のエクササ の意見を き、友達 のこと	パネルディスカッション などの様々な行事に対 するお礼のあいさつを立 派にすることができた。	何事にも真面目に取り 組む。いつも穏やかだ が、野球にかける思い は熱い。	掃除の前に当番活動で いない同じ班の友達の 机を運んでいた。
素直でいつも穏やか。頼 まれたことや係、委員会 の仕事など嫌な顔をせず に進んで活動することが できる。	困って を助け ることも できる	友達の過ちに対する謝 罪を素直に受け入れ、 その友達を許すことが できた。	コーラス部の副部長とし て夏休みの練習が一番に 来て、鍵盤を弾いて準備し、 意欲的に練習に励んでい た。	分け隔てなく、誰に対 しても優しい。困っている友達 がいたら進んで手伝うこと ができる。
選択授業でグループに 入れなかった友達に声 を掛けて一緒に活動し ていた。	エンカウン ターでは、他の つかないようなす 意見を発表すること ができた。	席間でも分け隔てなく接 することができた。一人 ひとりに声をかけるこ とができる。	給食当番の友達が欠席 の時に、進んで「僕がや ります。」といって一人 二役を頑張っていた。	悩みの多い友人の話を よく聞いたり、相談に 乗ったりしている。
常に穏やかで、誰とでも 優しく接することができる。 テニスが大好き。	常に友達を心配したり、 周りを見て行動すること ができる。何事にも前向 きに取り組んでいる。	総 として無 動力となっ	おとなしいが、芯はしっ かっている。自分の気 持ちは言葉で伝えようと している。	リーダーとしての素質が ある。学級目標を決める ときにより意見を発表し た。

定期的に授業研究会を実施したときに、教科担当者としてクラスの座席表を記入することによって、一人一人の生徒のことを授業で見ているかの確認をした。普段、見ているようで見ていない生徒がいることに気付くこともあり、その子の情報交換をしたり、意識して見るように心がけた。

## 8. 保護者啓発の実践

### （1）家庭訪問時

夏休み中の家庭訪問時において、担任が保護者に対して愛宕台中の人権教育について説明し、保護者がどのように考えどのように受けとめているかを把握してくる。また、保護者の顔色や様子から、同和問題をはじめとする様々な人権問題についての疑問や不安を感じ取り、その時、担任自身がどう受け止めたのかをまとめる。そして、家庭訪問後に現職教育の機会を持ち、教師自身の自己啓発の場とした。

このような実践を通して、人権教育に関する保護者の意識や考え方を把握することができた。（別紙資料2）

### （2）学年部会

学校からの全体説明のほかに1，2年生の3学期の学年部会では、保護者の意見に耳を傾けるために学級懇談会を設けた。この学級懇談会の折りに、『人権作文を読んだ保護者の感想』をもとに、人権について話し合いを行った。このときには、保護者の人権についての意識を把握することができた。また、担任が、学校で行っている人権教育について説明し、理解を深めてもらう機会をつくった。

### （3）広報誌

毎月発行される学年だよりには、『愛中生の姿』というコーナーを設け、生徒の具体的な活動の様子を保護者に伝えている。教師は、日頃から生徒一人一人の活動を丁寧に見つめ、普段気がつかない面に気づく眼を養うことができた。

また、年4回発行された人権教育だより『かけはし』で、学校で行われている人権教育や保護者の学校教育についての考えを載せ、相互理解の場に役立てた。（別紙資料3）



#### (4) 人権作文を通して

夏休みに生徒が書いた人権作文を各担任が読み、一人一人の作文に担任の思いを書いた。自分の子どもの作文や担任からのコメントを保護者に読んでもらって感想や意見を寄せてもらった。そのことで、生徒・保護者・教師の人権に対する意識や思いなどを知ることができた。3年間の実践で、毎年全体の80%以上にあたる保護者から感想をいただくことができた。

(別添資料4)

### 9. 教師の同和問題に対する認識を深める研修の実践

#### (1) 被差別部落出身者との話し合い

解放同盟足利市協議会の方と愛宕台中と学区内の小学校の先生方で、学区内や足利における差別の現状を聞かせていただく研修を実施した。学区内の差別の歴史や実態を知ることにより、今後、同和問題をはじめとする様々な人権問題に直面するかもしれない生徒達と、人権問題についてともに考えられる教師になるための一つの研修とした。

実施後の先生方の感想には、

・「正しく教えて、正しく学んでいく」これは同和問題に対する教師と生徒のあり方だと、講師の方が教えてくれました。そのためには、現実の問題をしっかりとつかんでいくべきだと今日の講話は始まりました。部落差別とは産まれた場所の差別であり、差別を受けて恨むのは親しかいないという言葉は私の心に突き刺さりました。「親は子を思う心で子に伝えずに、差別を受けないところへ嫁がせた。つまり、嫁ぎ先も部落だった。」のは講師の方の実体験でした。自分が知らなければ教えられない。自分の子どもにも差別を受けさせたくないという思いで部落解放運動に参加したそうです。子を思わない親はいないでしょうし、その思いのために差別がなくならないのはおかしいと思います。やはり、全員が同和問題に対して正しい知識を持ち差別をなくそうと生きていけると共に私たちが動かなければならないと強く思いました。また、差別をしているのは私たちの親の世代だと思っていたと思われがちですが、実は違うことを改めて知ることができました。それは、インターネットによる差別です。「インターネットを扱う60代70代はあまりいませんよね」という言葉も衝撃的でした。

差別がなくなるように、もっともっと学習し、研修し、よりよい関係をつくり、教育と啓発を繰り返していきたいと思います。

・今日の研修会で人権教育の現在までの流れについてお話をお聞きし、今までほとんど何も知らずに過ごしてきた私にとっては衝撃的でした。この仕事に就いていなければ、きっとずっと正しいことをほとんど知らないままいたんだろうなあと思い怖くなりました。講師の方がお話ししていたように「教育で始まり、教育で終わる」ということで現在の子ども達に正しいことを教えていくことが大切なんだと改めて思いました。まだまだ勉強不足なので正しいことを学び、自分がいつか親になったら子どもに教えられたらなと思います。

・講師の方がおっしゃっていた「学校ができること、教師に臨むこと」では、同和問題をいかに家の人と話すか、人間の意識を変えることが必要ということであった。年に1回、家族と話し合う機会を作っているが、子供も交えて話し合えればと思った。

私自身が、もっと話し合いに参加したかった。自分の勉強不足ということもあるが、何をどう話していいのかが分らなかった。はっきり言って、自分の中でこのことを言ったら気分を害するのではという不安があったのが正直な気持ち。これは、私の中での差別になるのだろうか？ざっくばらんに話ができるといいなと思った。なぜか身構えてしまう自分がある。というような感想が挙げられた。

## (2) 被差別部落出身の保護者との話し合いを通して自己啓発をした実践

被差別部落出身の保護者と同和問題についての話し合いを行った。2つの事例を実践することができ、次のようなことを把握することができた。

- ・話し合いを実施する前は、教師側に「こんな事を聞くと相手に悪いかな」という感情があったが、このことは一見相手のことを思っているように感じるが、実は自分自身のなかに同和問題に対する偏見があったと実感した。
- ・同和問題というのは、その家族ごとに差別の実態も違うことが把握できた。
- ・話し合いを通して、何でも気軽に話し合える関係ができた。話し合いによって保護者との信頼関係が深まった。

今後も、保護者や生徒の同和問題に関する不安や悩みを把握していく実践を続けたい。そして、生徒を支えられる教師になりたい。

## 10. 研究の成果と課題

### (成果)

#### ○学習指導

- ・授業の中で、先生方が一人一人に関わるための時間や場の設定を意識するようになった。
- ・チェックポイントをもとに、全職員が一人一人の生徒をよく見ようとする意識が向上した。

#### ○学級経営

- ・全職員の共通理解のもとチェックポイントの自校化を図ることができ、それをもとにした生徒理解のための実践が進み、情報交換もできた。
- ・生活ノートの記入や気づき賞の実践など、生徒を認める活動を通して、一人一人の生徒が居場所のある学級経営を実践することができた。

#### ○保護者啓発

- ・同和問題について保護者と話し合ったことで、教師と保護者の信頼関係が深まった。
- ・家庭訪問時に、担任がそれぞれの家庭で学校の人権教育の取り組みを説明し、保護者の考えを把握することができた。また、教師自身の自己啓発の場にもなった。
- ・人権教育だより『かけはし』が年4回発行でき、保護者啓発に役立てられた。
- ・1, 2年の保護者を対象に、学級懇談会で人権作文の感想をもとに、人権教育について話し合いを持つことができた。

#### ○職員研修

- ・研究計画に従って、ほぼ予定通り研修が行われた。特に、被差別部落出身者との交流では有意義な話し合いが行われ、教職員一人一人が人権教育の大切さを痛感できた。

### (課題)

- ・同和問題を語り合える関係づくりを築き、教師・生徒・保護者での三者で支え合える関係づくりを進めていくこと。
- ・3年間の研究学校が終えた後も人権教育の日常化を図ること。  
(チェックポイントのより一層の活用、より深い把握の気づき賞の実践、  
家庭訪問を通じた保護者啓発の継続実践)

1 チェックポイントを通して把握したこと ( 10月～ 2月の実践)

女	劇衣装「間に合いません。朝早くやります」と、音感に強い。
女	「部活の場所、エッパ素晴らしい」と言って「あそこは基本です」と笑顔。部活大の場所を
男	成績がよければ、とて。「勉強がしたい」と言って「前よりやります。教えることにします」自信が
男	なりたいと、目標を言っている。昼休み、とて。「免」という字、おもしろい、とて「
女	部活や友人のことで悩んでいる様子。放課後、話を聞いてあげた。生活ノートに「少しづつ
女	友人のことで悩んでいる。とて「えんぴつ...」と書いて「ありげう。優しい」に、照れ顔で
男	友人のことで悩んでいる。とて「やります」と「ありげう。おもしろい」に、笑顔で。
女	「3年にならば、半分以上は、とて。昼休みから練習。上達し頑張る、とて。優しい、とて
女	ギター練習を頑張る、とて。「3年生を迷い込みに、家でも練習します」とて、頑張る、とて
男	紙に書く。脚本を書く。パソコンで作成。「これ絶対おもしろい、とて。俺、頑張る、とて
男	「じいちゃん、勉強したい、とて。勉強、勉強、とて。勉強、勉強、とて。勉強、勉強、とて。勉強、勉強、とて
女	「帰りの会、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
女	初め、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
女	生活ノート、とて。「掃除、とて。掃除、とて。掃除、とて。掃除、とて。掃除、とて。掃除、とて。掃除、とて
女	友人のことで悩んでいる、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
男	「男子の歌は俺に任せよう、とて。男子の歌は俺に任せよう、とて。男子の歌は俺に任せよう、とて。男子の歌は俺に任せよう、とて
男	「3年生を迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて
男	「ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて。ギター、とて
男	「コトを中心に、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて。迷い込みに、とて
女	「笑顔を、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
女	表情が、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
男	「新しい練習、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
男	「ギター、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて
女	「歌、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて。声で、とて

○感じたこと

年度当初、学期に1回は全員の生徒に記入できるようにしたいと目標を立てた。だが、学期が終わってみると記入できない生徒が必ずいて、自分がいかに生徒のことを見ていないかを強く感じた。「見よう」としなければ見えてこないものがある。記入できない生徒に対してできるだけ関わりを持つようにすると、新しく気づくことも出てきた。チェックポイントを意識することで、自分の中の「見よう・気づこう」という意識が高まると改めて感じた。

1 チェックポイントを通して把握したこと(3学期の実践)

性	チェックポイントを通して把握したこと(1月8日～2月22日)
女	・いつも明るく元気な返事してくれる。学校が楽しい。(項目ウ)
男	・いつも声が小さいが、先日の帰りの会の司会は声が大きかった。(項目サ)
男	・給食委員会の仕事を、時間を守ってよくやっている。(項目キ)
女	・毎朝、一番早く登校し、教室の電気をつけたりしている。(項目ア)
男	・音楽に大変興味をもつ。ドラムも上手である。(項目ス)
女	・教室になかなか入れない友達に、毎日、やさしく接してくれる。(項目ス)
女	・受験が終了し、合格してから精神的に安定している。(項目エ)
男	・教室そうじになってから、とても熱心にやっている(項目コ)
女	・自主学習ノートでは、イラストを使い工夫して勉強している。(項目カ)
女	・受験の前は、今までの遅れを取り戻すため、一生懸命勉強していた。(オ)
女	・県立高校に推して内定後、しっかり勉強している。塾の送迎は母が大変。(ケ)
女	・放送委員会で、清掃開始の音楽を時間通りに流している。(項目ジ)
男	・教室そうじになってから、とても熱心にやっている(項目コ)
男	・雪の降った後、自主的に雪かきを手伝ってくれた。(項目ス)
男	・調理実習のとき、祖母が作ったホウレンソウをうれしそうに食べてきた。
男	・パソコンに大変興味を示し、いろんなことを知っている。(項目ク)
女	・入試の前になるとよく体調をくずす。県立入試の前もちょっと心配(項目オ)
男	・メッセージカード作りでは、素速く作業をすることができた。
女	・お母さんがドリカムのファン。私と同じと言ったらよろこんでいた(項目ケ)
女	・生活ノートに、休日祖母のおみまいに毎週いっていることが書かれていた(カ)
男	・学校では口数少なくおとなしいが、家では、パソコンやゲームに夢中(項目財)
男	・家庭では、ニンテンドウDSを使って歴史の学習をやっている。(項目ケ)
男	・給食後のゴミ捨ても大変よくやっている。(項目キ)
女	・自習学習ノートをもっとしっかりやっている。(項目カ)
女	・給食中にしりとりゲームを提案し、班内の会話をとりログる(項目ク)
男	・だれも見えていなくても、大変よくそうじをやっている(項目コ)

○感じたこと

一人一人の良さを把握するためには、教師側は意識を持って生徒を見ようとしないと見えないことがわかった。そのために、チェックポイントは生徒を見るためのよりどころになるものと考えられる。また、把握したことをこまめに記録することが大切なことと思うが、2学期は3年生の進路事務の忙しいなか、その余裕がないことも多かった。後になってしまうと、記憶が薄れたり、他のことが出てきて機会を逃してしまったこともあったことが反省点である。でも、3学期は一人一人の把握を意識して行えたと思う。

## 家庭訪問での保護者啓発の実践 (別紙資料2)

### 1 保護者啓発のねらい

- (1) 保護者に本校の人権教育に対しての理解を得て、教師と保護者で生徒を支えていく関係を作っていく。(保護者との関係づくり)
- (2) 同和問題をはじめとする様々な人権問題に対する認識を深めるための教師自身の自己啓発の場とする。

### 2 今回の家庭訪問での保護者啓発・自己啓発

- (1) 本校の人権教育について、保護者がどのように考え、どのように受けとめているかを把握してくる。
- (2) 保護者の顔色や様子から、本校で進める人権教育や同和問題をはじめとする様々な人権問題についての疑問や不安を感じ取る。また、その時、担任はどう受け止めたのかまとめる。

保護者の言葉や先生の感想の記録 (一部抜粋)	
具体的な保護者の様子と発言・反応・意見	先生のそのときの気持ち・受けた印象
・今の3年生は、3年間の研究の証だと思う。色々な先生がみて下さっているの、愛宕台中でよかったと思います。	・小さな学校だから、教師も一人一人をよく見ることができるのだな。
・理想的な人権教育。でも様々な人に対してどう接するのかわからないのが心配。例えば、クラスに身体の不自由な子がいたらどう接すればいいのか実際に体験できていない。色々な人とこの先どう関わっていくのか、高校に進学してから身に付けてほしい。	・同感。今まで担当したクラスには、特別支援の子や外国人(日本語が話せない)と一緒に教室にいたこともあった。毎日の生活で培われる人権教育もあるが愛宕の子は日常生活の体験することができないんだな・・・。
・校長先生をはじめ、色々な先生が目が行き届いていてありがたい。先生との距離が近い。	・うれしい。
・小学校の頃から学んでいて本人も知っていることだと思う。同和問題だけでなく他の人権問題と共に学んでいって欲しい。	・学校で学ぶこと、親子ともに学ぶべきことと受け止めている様子であった。
・こちらに嫁ぐときに、親が調べていたということを決婚が決まってから話してくれた。私たちの世代の上の世代が偏見を持っていると思う。その世代の方の入れ知恵で差別が始まってしまうように思う。	・生徒達の祖父母の代の方までが大変気になっている問題であると母親は言っていたが、自分には直接関係がないことなので一応安心しているような印象を受けた。
・特別に教えたことはありませんが、子どもに差別的な発言や行動が見られたときには言いたいと思っています。	・親からあえて教えることには抵抗を感じているように感じました。受け身的な感じを受けました。
・同和問題は普段あまり意識はしていない。考えもしていない。	・これが正直な意見・反応だと思った。子どものことはよく考えていてくれる。
・人権作文を書かせるのはすごく良いと思う。子どもと人権について会話をするきっかけになる。	・子どもと共に話をすることが出来ているのだなと感じた。
・祖父母の時代に差別があったらしい。子どもも薄々地区のことは祖父母に聞いて知っている。今のところは子どもに同和地区のことを話す気はない。大人になったら話そうかな？	・被差別部落と近いところにあるので、やはり昔から差別意識があったのかなと感じた。

# かけはし

人権教育だより 第1号  
平成20年 4月25日 発行

新緑が目にしみる今日この頃になりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご協力・ご理解を賜りありがとうございます。

さて、本校は足利市教育委員会指定の人権教育研究校となつて3年目になりました。昨年度もいろいろな成果を挙げることができましたが、今年度も、生徒一人一人のために職員が一丸となつて研究実践していこうと考えています。今後も、保護者の方のより一層のご協力・ご支援も必要になると思いますので、愛宕台中の生徒のためにご協力をよろしくお願いいたします。

## 研究テーマ

互いに励まし合い、  
困難を乗り越えられる生徒の育成  
～ 生徒の悩みや願いを語り合える教師 ～

### ◎人権教育とはどんな教育ですか？

本校の人権教育は、一人一人の子どもたちを ていねいに見つめ、  
子どもの不安や悩みを親身に聞き、子どもたちを大切にせる教育 です。



### ◎昨年度に実践したこと。

- 1 教職員一人一人が、生徒をていねいに把握していくためのチェックポイントを作成・見直し、それをもとに生徒の良い面を中心にみていく実践をしました。
- 2 授業では、ねらいの明確な授業を心がけ、「わかる授業」の展開に努力しました。また、授業中にできるだけ一人一人の生徒とかかわり、つまづいている生徒や頑張った生徒の把握に務めました。
- 3 日常生活では、積極的に生徒との会話を心がけ、生徒の気持ちや悩みを把握しようと努めました。また、「生活ノート」などを通して、生徒の考えにも触れる努力をしました。
- 4 毎年続いていますが「気づき賞」を設け、一人一人の生徒のよさに気づく努力をしました。また、学年だより「愛中生の姿」というコーナーを設け、生徒のよさを紹介しました。
- 5 私たち教職員は、同和問題をはじめ、様々な人権問題について学び、人権感覚を磨く努力を実践しています。



### ★生徒の良い面の情報交換を終えての先生方の感想

生徒の良い面を把握して発表する機会は初めてだったので新鮮に感じた。自分のクラスの生徒で自分が気がつかない良い面を、他の先生が言ってくれるのをとてもうれしく感じた。生徒指導のマイナス面の情報交換会は心が沈むがこの情報交換会は生き生きとした。

自分が気づけなかったような生徒の良い面がたくさんあり、特に担任しているクラスの生徒のことを聞いたのは有り難かったです。特に、〇〇先生の言われた「教師側に見ようとする気持ちがないと見えてこないの・・・」という言葉にハッとしました。日々の忙しさを理由に良い面を見ようというゆとりが自分の中に無いかと反省しました。

普段の授業や学校生活の中で接していた生徒の新たな一面を知ることができた。授業ではあまりやる気を出していない生徒も部活やちょっとした関わりの中で良い面を見せてくれることは私たちにとってもうれしいことだし印象深い。まだまだすべての生徒と関わることができないので、これからは少しずつ生徒の良い面に出会えるように接していきたいと思う。このような情報交換会の場があると、自分では気づけなかった生徒の良い面を知ることができるので、今後もあったらいいと思う。

本校の人権教育について、ご意見・ご感想・ご質問等ございましたら、担任までご提出ください。(人権教育以外でも結構です。)

----- 切り取ってご提出ください -----  
できましたらお名前を 年



# かけはし

人権教育だより 第4号

平成19年12月 4日 発行

「人権週間」(12月4日から10日まで)です

世界人権宣言が採択された『12月10日人権デー』を最終日とする1週間を人権週間といいます。ご家庭でも、この機会に人権について話し合う時間をとっていただけると大変嬉しいですよ。

◎生徒が書いた「人権作文」の感想について、全体の82%(102名)の保護者の方から感想を寄せていただきました。大変ありがとうございました。その一部を紹介します。

・障害者の人たちの立場になって考え、困っていたときは助けてあげたいという思いやりが感じ取れました。その思いやりの心を忘れず日常生活の中で生かして欲しいと思います。私たち保護者も子ども達の書いた作文を読んで、改めて人権作文に対する意識が高められたのではないかと思います。

・自分では悪気はなくても、何気ない一言で相手を傷つけてしまったり、悲しませたりしてしまうことは良くあることだと思います。自分が相手の立場に立って思いを巡らせることや自分の言動について反省していく必要があると思います。「知らなかった」ではなく、普段から人権意識を高めていくように心掛け、お互いに仲良く気持ちよく生活できるように気を付けていきたいと思っています。

・心の中で助けようと思っていたことを知ってとても嬉しく思いました。次は行動に出せたら素晴らしいことだと思います。私たち親の行動を子供はよく見ていていろいろ感じ取っているんだなあと痛感させられました。私のとった行動をこんな嬉しい形で返してもらえたのだと思います。困っている人を助けると、いつか自分にごほうびとして返ってくると思います。私は子供から素晴らしいごほうびをもらいました。ありがとう。

・娘の作文を読んで”生きていくこと”についての内容でびっくりしました。今の時代だから、特に”生きる”とか”いじめ”とか改めて耳にしたり考えたりするのだと思いました。人間は一人では生きていけないのだから、必ず誰かに助けてもらっている。自分は意識をしていないけれど人を助けているのかもしれないですね。これからたくさんの”何故”が出てくると思います。「自分は必要とされている」ということを誰もが感じて”生きていくこと”につなげていってもらえたらと思いました。

----- 切り取ってご提出ください -----

できましたらお名前を \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_

1. ねらい

- (1) 生徒と教師が、ともに人権について考える時間を持つ。(学級活動)
- (2) 一人一人の作文を読むことにより、一人一人の生徒を見つめ直し、生徒の悩みや願いを把握する。
- (3) 生徒、教師、(保護者)の人権に対する意識や思いをお互いに知り、同和問題をはじめとする人権問題に関する認識を高め合う。

2. 実施内容とその手順

- ①学級で人権教育アプローチを実施。その活動も参考にして全生徒が人権作文を書く
- ②生徒の作文にコメントをつける。  
(担任の先生が感じたこと、生徒と一緒に考えたいと思うことなど)
- ③保護者に感想を書いていただく。
- ④その感想をもとに、学級懇談会で人権についての話し合いを実施する。

3. 実践結果

- (1) 生徒の人権作文を読んで教師が感じたこと
  - ・毎日、接していたが一人一人がしっかりと人権について考えていることが分かった。意外な人がしっかりと考え、自分の気持ちを文章に表すことができているとすごいなと思った。
  - ・車椅子体験を道徳で実施したせいか、車椅子に乗る障害者について書いた生徒が多かった。普段何気なく使っている学校が、いかに使いづらいかなど、自分の体験をもとに述べることもできた。いじめをしてしまったり、されたりした書く生徒も数人いた。されてしまったことを今でも悲しむ生徒には逆に「絶対にいじめをして人を悲しませないで」とメッセージを送った。悲しみを知ってこそ人の痛みが分かり、優しくなれるのだと思った。
- (2) 作文にコメントをつけたときに感じたこと・考えたこと
  - ・共感する部分に対してすんなりとコメントを入れることができたが、違った考えに対してはストレートにコメントを入れることができず、よく分からないコメントになってしまったところもあった。生徒一人一人が真剣に考えて書いた作文なので私自身もしっかり読んで一生懸命にコメントした。
  - ・生徒の良い考えを認め、励ますようなコメントが書けたらと思う。いじめについて「いじめられている子がいたら、私は話しかけて支えたい」など勇気ある意見には教師の願いを込めて「その意識がいじめを無くすと思います。」と書いた。
- (3) 保護者の感想(毎年、全体の80%以上の保護者から感想が寄せられた)
  - ・人の心の中までは見えないので、同じ言葉でも相手の受け止め方次第で傷ついてしまうことが分かり、言葉の暴力がどれほど人を傷つけるか実感したのではないかと思います。傷つけてしまったことを深く反省し、これからは思いやりのある人間になろうと心を改めることが出来たので、それを実行して行って欲しいと思います。いつまでも子どもとも思っていました、子どもの話を聞くことの大切さを実感し、親としても反省させられました。
  - ・子どもの作文を読んで心の奥をのぞけた感じです。子どもに相談を受けたとき、親が解決してあげるのではなく、どうしたらよいか一緒に考えてちょっと手を貸してあげるだけで子どもはみるみる元気になりました。当時、いじめという存在が子どもの心に傷を残したままではと心配でした。しかし、この作文を読んでちゃんと乗り越えられた姿を見ることができました。そして、今度は他の人にちょっと手を貸してあげる存在になろうとしている気持ちも知ることができました。成長を感じております。
  - ・人権作文を読み子どもの感じていること伝えたいことがしっかりと文章にしてあり成長が感じ取れました。私自身、改めて様々な人権問題について考えさせられました。作文で書いた気持ち、人を思いやる気持ちを忘れず命を大切に、日々大事に生きてほしいと思います。
  - ・子どもの人権作文を読んで、いろいろ考えなければいけないと思いました。私も肌の色の違いで差別してしまうときがあります。外国人というだけで怖いと思うこともあります。一人一人のちょっとした思いが人権差別をしているのだと感じました。子どもの作文の中にあつたように、先入観で決めるのはダメだと。未来が差別なく、どの国のいろいろな人種の人々が平和に暮らしていけることを願いたいと思います。
  - ・日頃からきめ細やかな対応をしていただき感謝しております。少々体調が悪くても学校を休みたがらない子どもです。きっと、学校には寄り添ってくれる人がいて自分の居場所があるからなのでしょう。子どもが「愛宕台にいじめはないよ!」と言っているのは安心していられる環境があるからなのだと思います。「いじめゼロライフ」を心に持ち続けて行って欲しいと願っています。
  - ・作文を読みこんなことを思っていたのか、こんな風に考えられるほど成長したのかとうれしくなりました。私自身が親に対して今の子どものように思えたのは独立してからだったにと驚きました。人権作文を書くことには意味があるんだと気付かされました。書くことにより、自分自身を見つめ直し、成長できる素晴らしいことですね。